



『心ある人に見せばや陸奥の』

矢祭山の秋の景色を』

西行法師



西行法師の歌碑

矢祭の地名は、平安中期の永承6年（1051）、源義家が奥州12年戦争の凱旋の途中、このの美景を賞賛し、背負っていた弓矢を岩窟に納めて戦勝報告の祭りを開き、武運の長久を祈ったことからこの名が起ったとされております。  
また、西行法師や水戸光圀などもこの美景の地の歌を残しています。

水戸光圀公の歌碑



不動明王尊像



夢想滝不動尊



神変尊殿



役行者小角

矢祭神社本殿



下関河内字上古宿五七菊池理夫氏宅の庭に、神変尊殿があつて、堂内には木刻の役行者小角（えんのぎよつじやおづぬ）が中央に、左右の鬼が安置されております。